

学芸交流連携ステージイベント

おいしいおかしいおしばい

わかったさんの キー



Photo: Hideto Maezawa

2016年9月3日(土)、4日(日)

原作: 寺村輝夫(『わかったさんのクッキー』/あかね書房より)

台本・演出: 岡田利規

美術: 金氏徹平

劇中歌作曲: 前野健太

出演者: 椎橋綾那、古屋隆太、山崎ルキノ、笠木泉、佐々木幸子

イベント名	おいしいおかしいおしばい「わかったさんのクッキー」金沢公演
日時	2016年9月3日(土)、4日(日) 両日15:00開演 (開場30分前、上演時間は約60分)
会場	金沢21世紀美術館 シアター21
料金	おとな 2,500円、こども(4歳以上~高校生) 1,000円、おやこ 3,000円
販売開始日	一般 7月2日(土) 友の会会員先行予約 6月25日(土)
主催	金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]
助成	平成28年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業
後援	金沢市教育委員会、北國新聞社、北陸放送、テレビ金沢、エフエム石川
お問合せ	金沢21世紀美術館 交流課 TEL 076-220-2811

取材申込み/問合せ先

金沢21世紀美術館 広報担当: 川守(広報室/交流課) 事業担当: 川守、吉備(学芸課)
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp
※ご取材の際には、事前にご連絡をお願いします。



おしばい「わかったさんのクッキー」について

おしばいは まほうのちから
まほうをつかって ふしぎなたのしいおはなし
「わかったさんのクッキー」が
おいしいおかしいおしばいになります

ストーリー

クリーニング屋さんの「わかったさん」。
洗たく物にはいついた「かぎ」を返しにいったはずが、不思議なマンションに迷い込み、
クッキーづくりの「かぎ」を体験することに…。



「わかったさんのクッキー」の特徴

1. 現代演劇の旗手チェルフィッチュ主宰・岡田利規が初めて挑むこどものためのお芝居

現代日本の若者を先鋭的に表現し、ゼロ年代の代表として海外でも高く評価される演劇カンパニー『チェルフィッチュ』主宰の岡田利規。ユニークな身体表現とテキストで人気を集め、チェルフィッチュ以前・以後という文脈で語られるほど、新たな舞台芸術の旗手として注目を浴びる存在です。デビュー小説集で大江健三郎賞を受賞するなど、小説家としても注目を集めています。その岡田がこどものためのお芝居という新境地に挑みます。注目の一作です。

2. 不思議な魅力にあふれた児童書『わかったさん』シリーズ、初の舞台化

誰もが一度は手にしたことがある児童書『わかったさん』シリーズの初の舞台化となる本作。こどものための舞台の題材として、岡田自らが児童書『わかったさんのクッキー』（寺村輝夫著）に注目しました。自由な発想と個性的なキャラクターにあふれた『わかったさん』は、こどももおとなも魅了する、ユニークな世界観であふれています。

3. 現代美術・音楽、気鋭のアーティストが集結

自由な感性にあふれた不思議な世界を、岡田利規と共に気鋭のアーティストが創りあげます。
国内のみならず、海外でも数多く展覧会を催す、人気若手・現代美術家の金氏徹平が舞台美術を、新進気鋭のシンガーソングライター前野健太が劇中歌をてがけ、今までの児童劇とは異なるアプローチで作品を創りあげます。
本作の大きな魅力。それは、新たな視点でこどもの感性や発想を刺激し、育む舞台であることです。



Photo: Hideto Maezawa

2



Photo: Hideto Maezawa

3

岡田利規 メッセージ

昨年、寺村輝夫さんの奔放な原作を元に「わかったさんのクッキー」という演劇をつくりました。非常に楽しい挑戦でした。子どもたちに見てもらおうための演劇をつくることは、僕にとって初めての仕事でした。責任重大だと思いながらやりました。

リハーサルを長い期間やりました。「まほうをかけよう」というのを合い言葉にしました。「まほう」とは言い換えれば、演劇が成立する奇跡のことです。演劇が成立するのは常に奇跡だと思います。それが毎回起こるのが演劇なのです。

でも、子どもに対してもそれは起こせるのだろうか。最初に僕が抱いていたいちばん大きな心配は、もしも子ども向けにつくることが、僕が普段演出する際に適用している芸術的な基準を下げなければいけないということなのだとしたらイヤだ……、というものでした。そんなことないはず、と信じてはいたものの確信が持てなかったのです。しかしリハーサルを開始して一ヶ月ほどしたとき、子どもたちを招いて行った試演会をし、それが杞憂だということがわかりました。子どもは演劇というこのとても知的な営為を楽しむ能力をなんの不足もなく身につけているのです。僕は安堵しましたがそれ以上に感動しました。そしてその後、なんの遠慮もしないで、自分の演劇的センスの本気を全力でぶつけて、作品を仕上げました。

演劇とは、上演と観客の出会いによって起こるなにかのことです。演劇の半分は、観客がつくるのです。子どもはそのことを理屈抜きでわかっていて、体現してくれます。子どもは演劇のすばらしい観客です。演劇を楽しむ能力に不足がないばかりでなく、反応が早くて、大きくて、強くて、やってるこちらも楽しい！

もしかしたら「わかったさんのクッキー」は、僕がこれまでつくった演劇のなかでいちばん、演劇の神髄に触れることのできているものかもしれないです。そしてもしそうだとしたらそれは観客(つまり、子どもたち！)のおかげです。

今年の夏、「わかったさんのクッキー」がまたそうした素晴らしい観客たちに出会えると思うだけで僕は幸せな気持ちになることができます。

岡田 利規

関連プログラム

「ちがったさんのラッキー」

金氏徹平が選んだいろいろな物、岡田利規からのおたのしみ指令、そしてプログラム・メンバー「ちがったーズ」と一緒に、いつもと「ちがった」物の見え方に気づく「ラッキー」体験をしましょう！

日時:8月11日(木)~9月4日(日)

※休場日 8月22日(月)、8月29日(月)

会場:金沢21世紀美術館 プロジェクト工房

料金:入場無料

※詳細は、別途、お知らせします。

アーティスト・トーク

出演:岡田利規(台本・演出)× 金氏徹平(美術)

日時:9月3日(土)17:00~18:00

会場:金沢21世紀美術館 シアター21

入場料:500円(ただし9/3か4の公演チケットをお持ちの方は無料)

定員:100名

※当日14:00より先着順に整理券を会場受付にて配布

(公演チケットをお持ちの方も整理券が必要)



Photo: Hideto Maezawa

4

プロフィール

岡田利規 OKADA Toshiki

演劇作家、小説家、チェルフィッチュ主宰。

1973年 横浜生まれ、熊本在住。97年演劇カンパニーチェルフィッチュを旗揚げ。独特な言葉と身体性が評価され、現代を代表する演劇カンパニーとして国内外で高い注目を集める。05年『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞を受賞。07年ベルギーのクンステン・フェスティバル・デザール2007で海外進出を果たし、以降世界計70都市で上演。08年『わたしたちに許された特別な時間の終わり』第二回大江健三郎賞受賞。小説家としても注目を集める。16年より3年間ドイツ有数の劇場ミュンヘン・カンマーシュピレでの演出を予定。KAAT神奈川芸術劇場とは11年より4作品『ソウガメのソニックライフ』『現在地』『地面と床』『スーパープレミアムソフトWパニラリッチ』をチェルフィッチュとして発表。15年『わかったさんのクッキー』を岡田利規作品として初演。金沢21世紀美術館では、チェルフィッチュとして09年にパフォーマンス公演『記憶の部屋について』を上演。



© 宇壽山貴久子

5

金氏徹平 KANEUJI Teppei

1978年京都府生まれ 京都府在住。2001年ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(ロンドン)留学。2003年京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修了。プラスチック製品やキャラクターフィギュアなどのおもちゃ、雑誌の切り抜き、シールなど身の回りにあるものを素材に、コラージュ的手法で制作を行う。2009年横浜美術館で、同館での史上最年少個展作家となる「溶け出す都市、空白の森」など国内での発表のほか、海外での個展や企画展も多数。近年では、シンガポールビエンナーレ2011、エルミタージュ美術館での企画展「Mono No Aware. Beauty of Things. Japanese Contemporary Art」(2013-14)参加、北京での個展「Towering Something」(2013、ユーレンス現代美術センター)など。また、2011年『家電のように解り合えない』(作・演出:岡田利規、出演:森山開次)、2013年、ARICA+ 金氏徹平『しあわせな日々』(あいちトリエンナーレ2013にて初演)にて舞台美術を手がける。金沢21世紀美術館では、2015年「われらの時代:ポスト工業化社会の美術」にて新作を含む32点の作品を展示した。



撮影:梅佳代

6

前野健太 MAENO Kenta

1979年埼玉県入間市出身。2007年に自ら立ち上げたレーベル“romance records”より『ロマンスカー』をリリースしデビュー。2009年ライブドキュメント映画『ライブテープ』(松江哲明監督)に主演。第22回東京国際映画祭「日本映画・ある視点部門」で作品賞を受賞。2010年9月“Victor Entertainment”より発売された『新・人間万葉歌〜阿久悠作詞』へ参加。桂銀淑(ケイ・ウンスク)の「花のように鳥のように」をカバーした音源を発表。同作はitunseなどで配信限定リリースされる。2011年3枚目のオリジナルアルバムとなる『ファックミー』をリリース。同年、松江哲明監督の映画『トーキョードリフター』に再び主演。全国公開される。2011年末には第14回みうらじゅん賞を受賞。2012年auの新CM「あたらしい自由」篇に出演。2013年1月、ジム・オルーク氏をプロデューサーに迎え制作された4枚目のアルバム『オレらは肉の歩く朝』を発売。同年7月「FUJI ROCK FESTIVAL '13」へ出演。



7

広報用画像

画像1~7を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記をお読みの上、下記へお申し込みください。

金沢 21 世紀美術館 広報担当/川守(広報室)

〒920-8509 金沢市広坂 1-2-1

TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802

http://www.kanazawa21.jp

E-mail: press@kanazawa21.jp

<使用条件>

※トリミングはご遠慮ください。画像が切れたりキャプション等の文字がかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送りください。

※アーカイブのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVDなどをお送りください。

以上、ご理解とご協力を頂けますようお願い申し上げます